

イッキにルビ振り Windows10 対応版

使用説明書

【はじめに】

「イッキにルビ振り ルビコンバータ for 一太郎 to InDesign」は、優れたルビ振り機能を持つ日本語ワープロソフト「一太郎」のルビを、InDesign のルビに変換するコンバータです。

本ソフトは、doc 形式で保存されたルビ入り一太郎文書を、ボタン一つで InDesign タグ付きテキストに変換します。数ページから数十ページの、比較的分量の少ない文章のルビ振りに適しています。

専用のルビ振りソフトを使わなくても、十分実用的にルビが付けられます。

また本ソフトは、InDesign が入っていない PC でも動作します。一つ一つ対話式に InDesign 上でルビを振る時間がない場合に、別な PC でルビ振りと変換が行えますので、分散ワークフローの構築が可能になります。

今後ともエンドユーザーの皆様にとって、使いやすく・簡単で成果の上がる・拡張性のある製品開発を行っていきます。ソフトの持つパフォーマンスを最大限に引き出していただければ幸いです。

注1)『一太郎』は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、
『一太郎』にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

『一太郎』は株式会社ジャストシステムの登録商標（商標）です。

注2) 上記以外に、本説明書に記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

注3) 本説明書は事前に告知することなく、必要に応じて追加または改訂される場合があります。最新版については、SND Softwareの製品ホームページよりダウンロード可能です。

注4) 本説明書記載の説明文や画面の例は、「イッキにルビ振り」発売当初の環境（Windows XP、InDesign CS、一太郎 2006 など）に基づいています。お客様の実行画面と表示やデザインが一部異なる場合があります。

《 目 次 》

1. 【主な機能・特長】	3
2. 【推奨される動作環境】	4
3. 【基本的なワークフロー】	5
4. 【使い方】	7
5. 【補足および注意事項】	28
6. 【インストールについて】	40
7. 【製品サポートについて】	42

【主な機能・特長】

1. 実行ボタンを押すだけで、一太郎のルビを InDesign のルビに変換します。
2. 一太郎のルビ入り文書（doc 形式保存）が、InDesign タグ付きテキストに変換されます。
3. 一太郎の優れたルビ振り機能を、DTP ワークフローに生かします。また、InDesign が入っていない PC 上でも変換可能です。
4. 独自開発のルビ変換エンジンが、一太郎のモノルビやグループルビを、高い精度で検出し変換します。
5. モノルビ・グループルビのどちらか、あるいは混在した出力が可能です。
6. カタカナのルビへの変換や、ルビ拗促音を大文字にすることが可能です。
7. 一太郎での簡単な操作で、割注形式のルビが入力できます。
8. 一太郎の傍点を、InDesign の圏点に変換できます。
9. ルビ変換後、自動で InDesign に配置して、ルビが振られた状態を確認することができます。
10. 変換されたルビや圏点・割注には、InDesign 上で文字スタイルが付加されるため、体裁の変更が簡単にできます。
11. タグ付きテキストのヘッダ部分をカスタマイズすることができ、文字サイズや書体などの基本体裁が付けられます。
12. Mac 用 InDesign のタグ付きテキストも、同時に作成することが可能です。

【推奨される動作環境】

対応 OS：Windows10（64bit 版）以降

必要アプリケーション：Microsoft Office2016 以降の Word（32bit 版の Office のみ動作可）

対象アプリケーション：一太郎 2017 以降および InDesign CC2017（64bit 版）以降

PC スペック：Intel Core プロセッサ 3GHz 以上（または同等の CPU）、メモリ 4G 以上

プログラム動作環境：InDesign・Word で VB（VBA）スクリプトが問題なく動作すること

注 1） OS や各アプリへの対応の最新状況については、製品ホームページに記載された動作確認リストを参照下さい。

注 2） Windows および Office には、最新のアップデートが適用されていることが必要です。（Windows10 メジャーアップデートの対応バージョンについては、動作確認リストを参照下さい）

本ソフトは Windows アプリケーションですが、Mac 用 InDesign のタグ付きテキスト出力も可能です。MacOS の違いや機種には特に依存しませんが、お客様の Mac 環境の InDesign に正常に読み込み可能か体験版で確認の上、本ソフトをご使用願います。

注 3） コントロールパネルのユーザーアカウント制御（UAC）を、最下段の「通知しない」にして本ソフトを実行して下さい。「通知しない」以外にした場合、エラーの原因になります。

注 4） Word は単体の製品でなく、Office 統合製品（パッケージや Office365）からインストールされていることが必要です。

注 5） 本ソフトおよび InDesign は、必ず「管理者として実行」（のモードで起動し使用）して下さい。「管理者として実行」しない場合、フォルダやファイルが自動で生成できず、処理が開始されないまたは途中でストップするなどエラーの原因になります。

【基本的なワークフロー】

「イッキにルビ振り」をご使用になり、最適な結果を得るための基本となるワークフローは、以下の通りです。

○基本的なワークフロー

1. 「イッキにルビ振り」での変換を前提とした、一太郎でのルビの入力を行う。
2. 「イッキにルビ振り」で各種設定をした後、変換を行う。
3. 正しく変換が行われたか、全てのルビについて校正を行う。

注1) 漢字以外の親文字にルビを振るときや、ルビに仮名以外の文字を使いたい場合には「ルビ区切り」を入力します。

注2) ワークフロー3では、InDesign に流し込んで正しく変換されたかを確認します。(変換後のタグ付きテキスト上では、校正は困難です)

例外的なワークフローとして、既存の一太郎ルビ入り文書を、下記の手順で変換することが可能です。

○例外的なワークフロー

1. 既存の一太郎ルビ入り文書が変換可能か全て確認し、必要に応じて修正を行う。
上記の他は基本的なワークフロー2. 3. と同じ

注3) 例外的なワークフロー1は、一太郎上で「ルビ区切り」を入れるための確認・修正作業です。

特に小説やコミックなどは、特別なルビの振り方がされている場合があります。

注4)「ルビ区切り」が適切に入力されない場合は、「イッキにルビ振り」で正しく変換することはできません。(下の例参照)

○ルビ区切りを入力せずに変換した例

1. 私は、^{インド北部}その辺りに → ×私は、^{インド北部}北部その辺りに
2. 彼は、^{ボール}あのひと → ×彼は、^{ボールあの}人
3. 深い ^{エメラルド・グリーン}青 緑 に → ×深い・^{エメラルド}グリーン青緑に

注5)「イッキにルビ振り」におけるルビの認識は、一般的に漢字は親文字列、ひらがな・カタカナはルビ文字列、という基本的なパターンを想定し変換を行っています。そのため「ルビ区切り」がない場合、例のようにルビと親文字との分離が正しい結果になりません。

注6) 上の例はグループルビの例ですが、モノルビも同様です。

その他の詳しい説明や注意点については、【補足および注意事項】の(5)ルビ変換について および(6)ルビ区切りについて を参照して下さい。

【使い方】

本ソフトでルビ変換を行うための主な操作手順やポイントは、以下のとおりです。次ページ以降、順に説明します。

○主な手順（処理の流れ）

- （１）一太郎でのルビ振りと文書の保存
- （２）実行前の準備と確認
- （３）本ソフトでの実行開始
- （４）ルビ変換処理（進行状況）
- （５）変換結果の確認

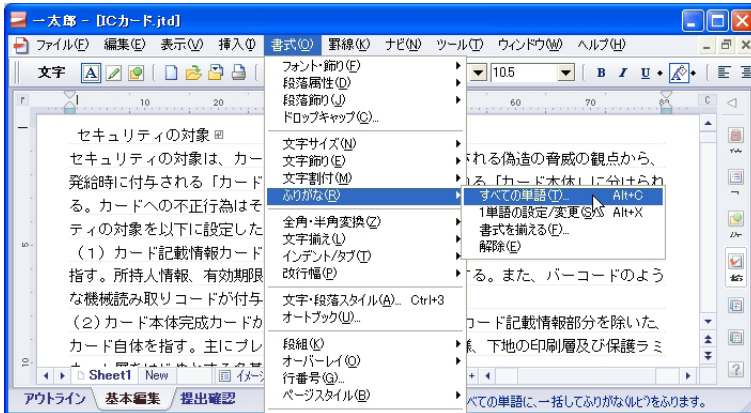
○その他のポイント

- （６）ユーティリティの設定について
- （７）タグ付きテキストについて
- （８）一太郎でのルビ振りについて（参考）

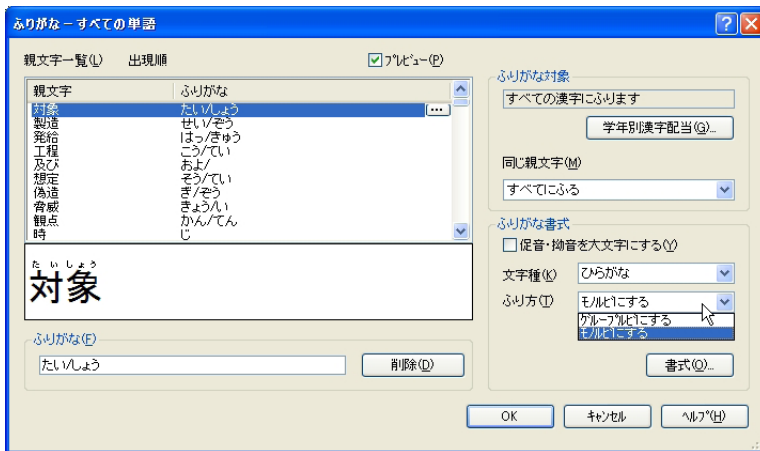
さらに詳しい説明や注意点については【補足および注意事項】のページを参照して下さい。

(1) 一太郎でのルビ振りと文書の保存（一太郎 2006 の例）

1. 一太郎上でルビを振ります。



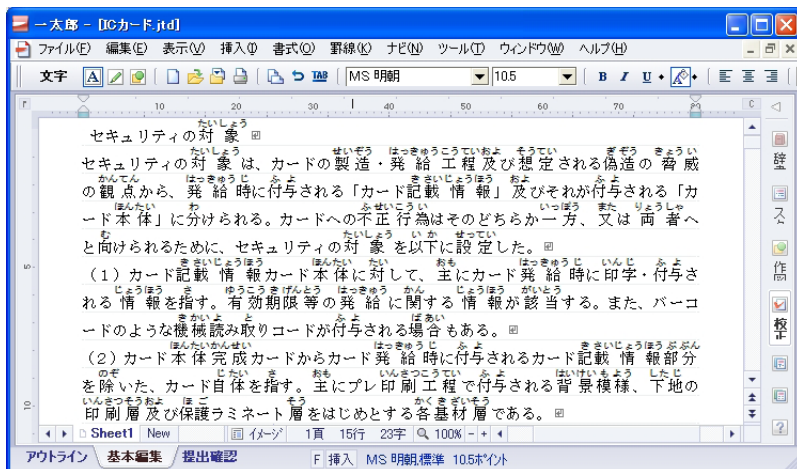
- ・総ルビは「すべての単語」、パラルビは「1単語の設定 / 変更」をクリックします。



- ・ルビの振り方について、「モノルビ」または「グループルビ」を選択します。（上はモノルビの例）

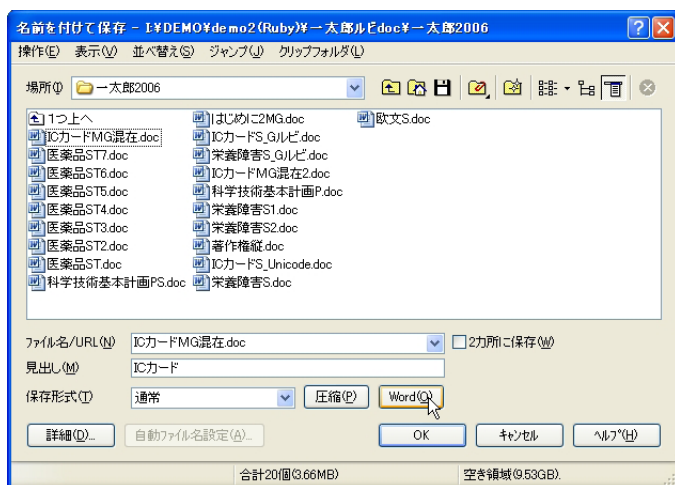
→ (8) 「一太郎でのルビ振りについて」参照

2. 振られたルビを確認します。



- ・ 正しく振られていない個所は、一太郎上で訂正します。

3. doc 形式（Word 形式）で文書を保存します。



- ・ ダイアログ中の「保存形式」で「Word」のボタンをクリックします。ファイル名の拡張子は「～.doc」となります。

(2) 実行前の準備と確認

1. Word が起動していたら終了します。

- ・起動中のまま実行を開始すると、エラーになります。

2. InDesign に自動流し込みをする場合は、対象となる InDesign 文書を開いておきます。

- ・InDesign で現在選択されている文書（アクティブ文書）に、ルビ変換後のテキストが流し込まれます。
- ・アクティブ文書は、空のフレームのみの文書を用意します。すでに文字が入っている場合、流し込みできずエラーが発生します。
- ・複数のバージョンの InDesign が起動されている場合、最後に起動されたバージョンが、流し込みの対象になります。

3. 「イッキにルビ振り」を起動します。

- ・Windows では、本ソフト起動のたびにアイコンを右クリックして、「管理者として実行」して下さい。（InDesign も同様）
- ・使用開始時に、「ユーティリティー管理－使用開始の手続き」でライセンスキーを入力することが必要です。

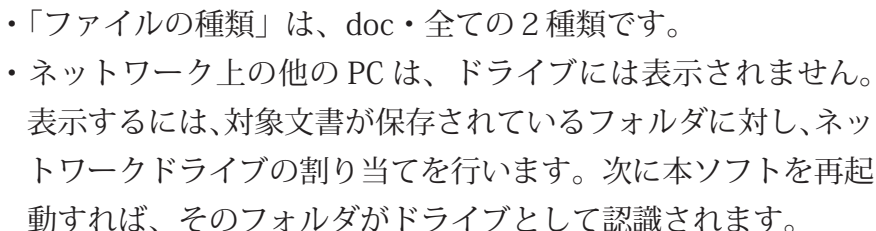
4. 必要に応じ、ルビ変換時の設定を行います。

- ・「ユーティリティー設定 1 から設定 3」で設定します。
→ (6) 「ユーティリティーの設定について」参照

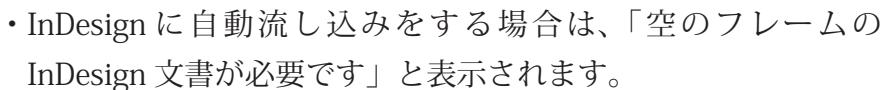
5. 「イッキにルビ振り」のメイン画面で、変換したいルビ入り doc 文書を選択します。

6. ルビが 1 文字もない文書の場合でも、変換前にエラーは出ません。変換処理が始まると中止できませんので、ルビの入った正しい対象文書を選択するよう注意して下さい。

1. 「実行ボタン」を押します。(下はメイン画面)

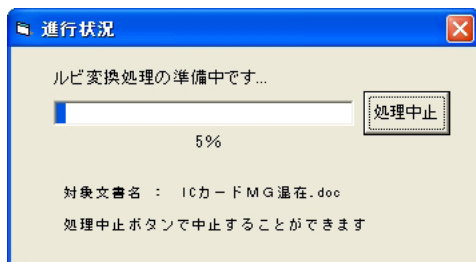


2. 対象文書名を確認して、「OK ボタン」を押します。



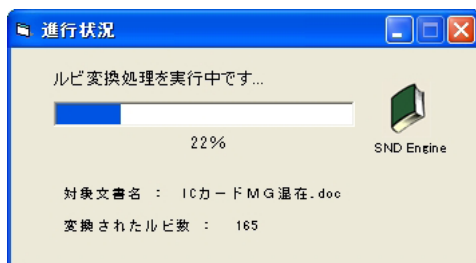
(4) ルビ変換処理（進行状況）

1. 実行開始直後の進行状況画面です。



- ・準備中の状態を示し、この画面のときのみ「処理中止」ボタンで実行を中止できます。（3～5秒間表示）
- ・これ以降は自動でルビが変換されます。
- ・処理中はマウス・キーボードには、できるだけ触れないようにして下さい。

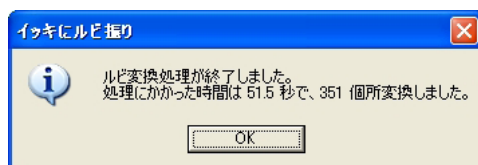
2. ルビ変換処理が実行されます。



- ・「処理中止」ボタンは消えます。（この段階では中止できません）
- ・表示されるステータスは、①進行度合い（％表示） ②対象文書名 ③変換されたルビ数の3つです。
- ・対象文書のルビの数や文書量（全体の文字数）が多いほど、変換に時間がかかります。

(5) 変換結果の確認

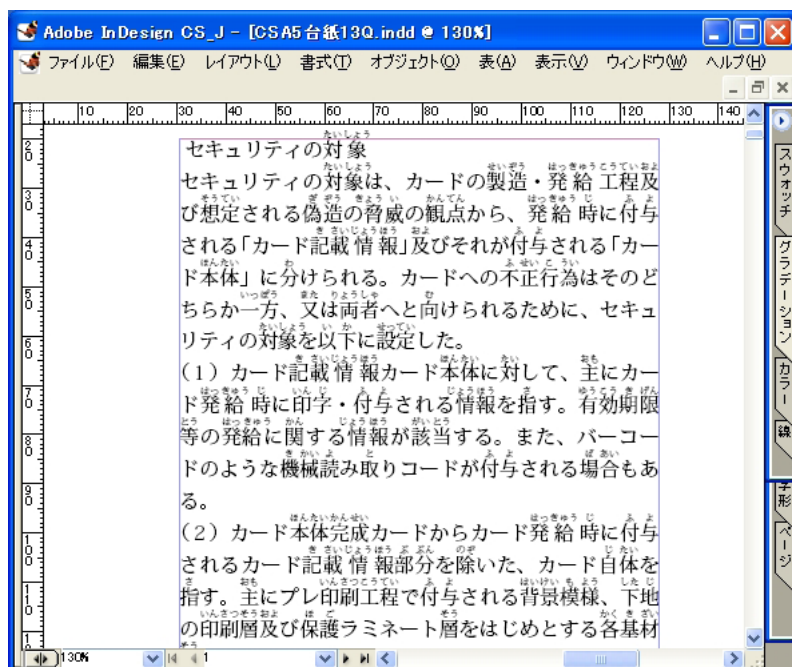
1. 変換処理が 100% 終了した画面です。



・タグ付きテキストファイルは、この時点で作成されます。

→ (7)「タグ付きテキストについて」参照

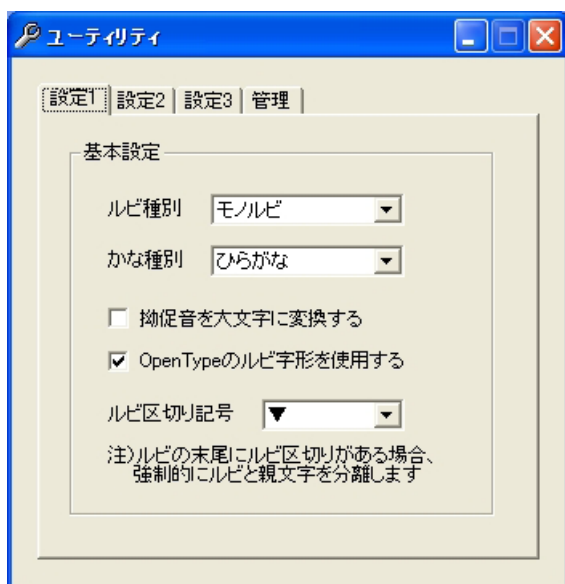
2. OK を押すと、「ユーティリティー設定 3 - 結果の確認」の設定に基づき、変換結果が表示されます。(下は InDesign の例)



以上が主な手順です。次ページからは、その他のポイントになります。

(6) ユーティリティの設定について

○設定 1



1. ルビ種別

- ・モノルビ ^{てん き}
天気
- ・グループルビ ^{てん き}
天気

漢字 1 文字ごとにルビを振る（モノルビ）か、単語または一連の漢字全体にルビを振る（グループルビ）かを設定します。

2. かな種別

- ・ひらがな ^{こ せきほう}
戸籍法
- ・カタカナ ^{コ セキホウ}
戸籍法

元文書のルビのかな種別をそのまま生かす（ひらがな）か、強制的にカタカナのルビに変換する（カタカナ）かを設定します。

3. 拗促音を大文字に変換する

- ・変換する しょうがつこう
小 学校
- ・変換しない しょうがつこう
小 学校

ルビに含まれる拗促音（やゆよっ など）を使わないで、大文字（やゆよつ など）にしたい場合は、変換するに設定します。

4. OpenType のルビ字形を使用する

- ・使用する しょうがつこう
小 学校 （小塚明朝 Pro の例）
- ・使用しない しょうがつこう
小 学校 （ " ）

ルビ専用に読みやすくデザインされた、OpenType Pro のルビ用字形を使用する、しないを設定します。（ルビ用字形を持つ OpenType Pro の書体を指定する必要があります）
使用しない場合は、通常の仮名の字形がルビに使われます。

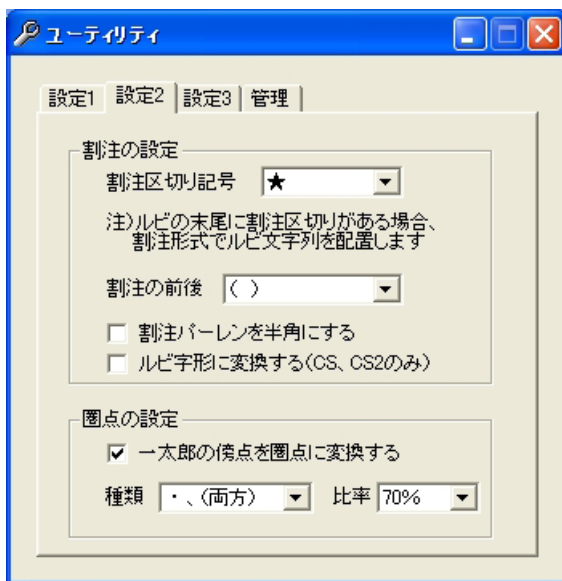
5. ルビ区切り記号

ルビの末尾に、△▲▽▼（のいずれか）がある場合、その位置でルビと親文字を区別します。（下は変換前、変換後の例）

- ・例 1 米 国 ▼
あの国と 米 国
あの国と
- ・例 2 M R ▼
担当が M R
担当が

本ソフトは、漢字に振られた仮名をルビとして認識します。
仮名にルビを振ったり、ルビ文字に仮名以外（漢字・アルファベット・記号類）を使用したい場合は、ルビ末尾に区切り記号を入れて下さい。 →【補足および注意事項】参照

○設定 2



1. 割注－割注区切り記号

ルビの末尾に、☆★◇◆（のいずれか）がある場合、ルビ文字列を割注文にします。（下は変換前、変換後の例）

- ・例 1 こうあんのえき★ 弘安の役<sup>こうあん
のえき</sup>
- ・例 2 こうあんのえき★ 弘安の役【<sup>こうあん
のえき</sup>】
- ・例 3 1281年の元の襲来★ 弘安の役<sup>1281年の
元の襲来</sup>]

ルビ（読み仮名）をそのまま割注文にしたい場合に、例 1・例 2 のように使用できます。

応用的な使い方として、通常の割注の文章をルビ文字列に入力することにより、例 3 のような割注を組むこともできます。

2. 割注－割注の前後

・半角アキの場合 弘安の役 こうあん
のえき

・（ ）の場合 弘安の役（こうあん
のえき）

割注の前後は、なし（ベタ送り）、4分アキ、半角アキ、（ ）、〔 〕、
[]、【 】、〈 〉、《 》、{ } から選択できます。

3. 割注－割注パーレンを半角にする

・するの場合 弘安の役(こうあん
のえき)

・しないの場合 弘安の役（こうあん
のえき）

「半角にする」と設定した場合、全角パーレンの半角分のアキがなくなり、見かけ上ベタ送りになります。（割注の前後にパーレンを使う設定のときに有効になります）

4. 割注－ルビ字形に変換する

・するの場合 北条時宗〔ほうじょう
ときむね〕ほう（拡大例）

・しないの場合 北条時宗〔ほうじょう
ときむね〕ほう（ 〃 ）

OpenType Pro のルビ用字形に変換する、しないを設定します。
「変換する」と設定した場合、写植で言う「ルビ割注」のように、
ルビ字形を割注内の仮名として使用できるため、可読性の向上が
期待できます。（OpenType Proの書体を指定する必要があります）

注）InDesign メニューの「編集－環境設定－組版－ハイライト
表示オプション」で、「代替字形」がオンになっている場合は、
ルビ字形に変換された個所が黄色で表示されます。

5. 圏点—一太郎の傍点を圏点に変換する

一太郎の「書式—文字飾り—傍点」で文書上に付けた傍点について、InDesign の圏点に変換する、しないを設定します。下記の2種類が対象になります。

- ・ 小さい黒丸 圏点に変換します
- ・ ゴマ 圏点に変換します

6. 圏点—種類、比率

圏点に変換するときの種類と比率を設定します。

種類は、小さい黒丸とゴマの両方、あるいはいずれか一方を変換できます。比率は、50%から 100%まで 5%きざみで、圏点の文字サイズの比率（文字の大きさ）を設定できます。

- ・ 小さい黒丸 70% 圏点に変換します
- ・ ゴマ 70% 圏点に変換します

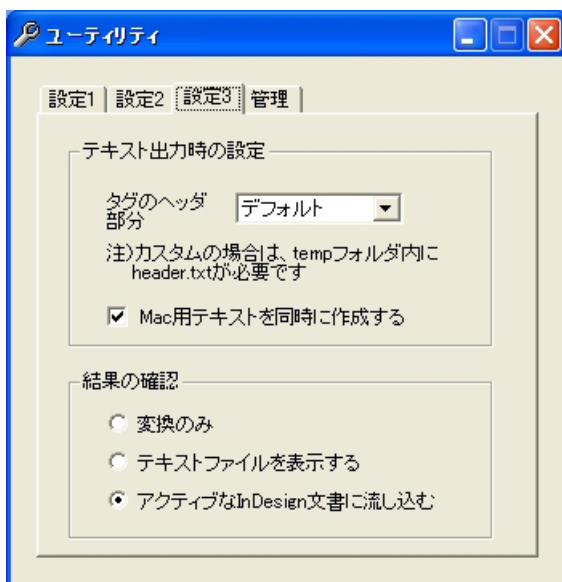
注) ユーティリティの設定 1 および 2 の設定にないものは、変換後 InDesign 文書上で、必要な体裁を追加・変更します。

また、本ソフトで出力されたタグ付きテキストには、ルビや割注、圏点にそれぞれ文字スタイルが付加されます。

→【補足および注意事項】参照

例えば、ルビと親文字との距離（オフセット）を変えたい場合には、InDesign のパレット内でルビの文字スタイルを編集することにより、簡単に体裁を変更できます。

○設定 3



1. タグ（タグ付きテキストファイル）のヘッダ部分

タグのヘッダ部分では、文書の基本となる体裁（書体や文字サイズ・行ピッチなど）の指定や、文字・段落スタイルの定義などが行われます。

・デフォルト

本ソフトで初期設定されているヘッダを使用します（通常はこちらを選択します）。ソフト側で生成するため、ファイルとしては用意されていません。

・カスタム

書体や文字サイズなどを変更した、独自のヘッダを使う場合に選択します。別にテキストファイルとして用意しておきます。

2. Mac 用テキストを同時に作成する

「作成する」と設定した場合は、変換終了時に、Mac 用の InDesign タグ付きテキストファイルが作成されます。

3. 結果の確認

• 変換のみ

ルビ変換（タグ付きテキストファイルの作成）のみ行います。
変換後の画面に変化はありません。

• テキストファイルを表示する

ルビ変換後、タグ付きテキストファイルを開きます。
メモ帳や各種エディタなど、～.txt ファイルに関連付けられたアプリケーションが起動し、ファイルの内容が表示されます。

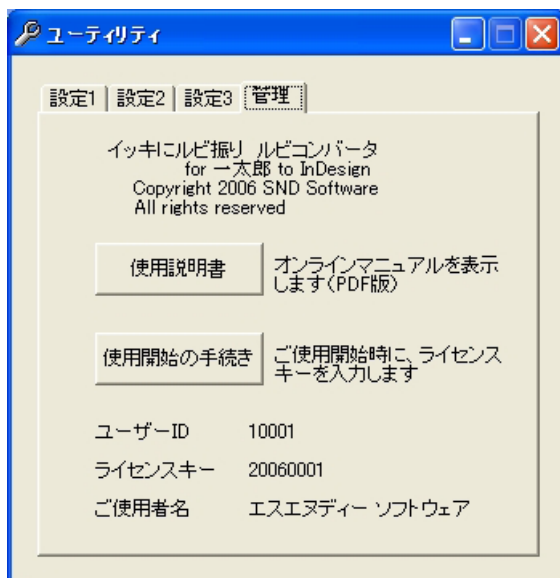
• アクティブな InDesign 文書に流し込む

ルビ変換後、タグ付きテキストファイルが InDesign に自動で流し込まれます。

アクティブな（InDesign の画面に表示され、選択されている）空のフレーム文書に、タグ付きテキストファイルが配置されます。読み込みが完了したら、先頭ページが表示されます。

設定 3 についての詳細は →(7)「タグ付きテキストについて」
参照

○管理



1. 使用説明書

ボタンを押すと、使用説明書（PDF ファイル）が表示されます。

2. 使用開始の手続き

ボタンを押すと、ライセンスキー入力画面が表示されます。本ソフトは、ライセンスキーを入力し認証された後に、はじめて実行が可能になります。

→【インストールについて】参照

3. その他

画面の下方に、ユーザー ID、ライセンスキー、ご使用者名が表示されます。

(7) タグ付きテキストについて

1. InDesign タグ付きテキストファイルの出力

- ・ルビ変換が終了した時点で、「～_ruby.txt」というタグ付きテキストファイルが書き出されます。

例えば「テスト出力.doc」を変換した場合は、「テスト出力_ruby.txt」となります。

- ・出力場所は、アプリケーションフォルダ（本ソフトがインストールされているフォルダ。初期設定では C:¥Program Files¥IK_RubyConv03）内の「RubyData」フォルダとなります。
- ・変換を実行するたびに、同名のファイルは上書きされます。

2. ヘッダ部分

- ・設定を「カスタム」とした場合の、実行前準備について
ファイル名を「header.txt」としたテキストファイルを、アプリケーションフォルダ内の「temp」フォルダの中に作成しておきます。（実行時に見つからない場合は、エラーになります）
変換時に、ファイルの先頭にヘッダとして付加されます。

- ・「header.txt」の内容は、デフォルトを参考にして書体や文字サイズなどを、必要に応じて変更して下さい。

ただし、スタイルの定義については、動作に影響しますので変更しないで下さい。

- ・設定が「デフォルト」のときは、以下のヘッダが付加されます。

```
<UNICODE-WIN>
<FeatureSet:InDesign-Japanese>
<ColorTable:=<Black:COLOR:CMYK:Process:0,0,0,1>>
<DefineCharStyle: ルビ標準 =<Nextstyle: ルビ標準 ><cTypeface:R>
<cSize:11.338583><cFont: 小塚明朝 Pro><cMojiRuby:1><rUseOTProGlyph:1>>
<DefineCharStyle: モノルビ =<Nextstyle: モノルビ >
<cTypeface:R><cSize:11.338583><cFont: 小塚明朝 Pro><cMojiRuby:1>
<rUseOTProGlyph:1>>
```

```

<DefineCharStyle: グルーブルビ =<Nextstyle: グルーブルビ ><cTypeface:R>
<cSize:11.338583><cFont: 小塚明朝 Pro><cMojiRuby:0><rUseOTProGlyph:1>>
<DefineCharStyle: 割注 =<Nextstyle: 割注 ><cTypeface:R><cSize:11.338583>
<cFont: 小塚明朝 Pro><cWarichu:1><cWariLines:2><cWariRelSize:0.5>>
<DefineCharStyle: 文字前ベタ =<Nextstyle: 文字前ベタ ><cTypeface:R>
<cSize:11.338583><cFont: 小塚明朝 Pro><cBeforeSpace:0>>
<DefineCharStyle: 文字後ベタ =<Nextstyle: 文字後ベタ ><cTypeface:R>
<cSize:11.338583><cFont: 小塚明朝 Pro><cAfterSpace:0>>
<DefineCharStyle: 文字後 4 分アキ =<Nextstyle: 文字後 4 分アキ ><cTypeface:R>
<cSize:11.338583><cFont: 小塚明朝 Pro><cAfterSpace:0.25>>
<DefineCharStyle: 文字後半角アキ =<Nextstyle: 文字後半角アキ ><cTypeface:R>
<cSize:11.338583><cFont: 小塚明朝 Pro><cAfterSpace:0.5>>
<DefineCharStyle: 圏点 1=<Nextstyle: 圏点 1><cTypeface:R><cSize:11.338583>
<cFont: 小塚明朝 Pro><cKentenKind:1><cBoutenHorizontalScale:0.7>
<cBoutenVerticalScale:0.7>>
<DefineCharStyle: 圏点 5=<Nextstyle: 圏点 5><cTypeface:R><cSize:11.338583>
<cFont: 小塚明朝 Pro><cKentenKind:5><cBoutenHorizontalScale:0.7>
<cBoutenVerticalScale:0.7>>
<DefineParaStyle: 段落標準=<Nextstyle: 段落標準><cTypeface:R><cSize:11.338583>
<cLeading:18.425197><cFont: 小塚明朝 Pro><cMojiRuby:1><rUseOTProGlyph:1>>
<ParaStyle: 段落標準>

```

注) 実際の改行の位置は、出力されたファイルを参照下さい。

3. Mac 用のタグ付きテキスト

- ・「Mac 用テキストを同時に作成する」が有効になっている場合は、Windows 用に加えて、Mac 用も「RubyData」フォルダに出力されます。
- ・ファイル名は、「Mac_ ~ _ruby.txt」となり、「テスト出力.doc」を変換した場合は、「Mac_ テスト出力 _ruby.txt」となります。

4. InDesign への配置

- ・InDesign に自動で流し込む設定のとき以外は、タグ付きテキストファイルを、手動で InDesign 文書に配置します。
- ・Mac 用テキストは、設定にかかわらず手動で配置します。

注) テキスト配置後は、InDesign のルビ・割注・圏点として認識されます。文字スタイルが付いていることを除けば、通常の編集操作でルビなどの修正や削除が行えます。

(8) 一太郎でのルビ振りについて（参考）

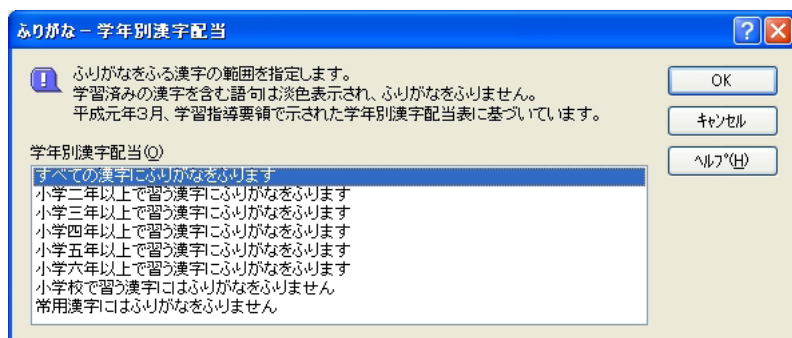
一太郎でのルビ振りにおけるポイントを記載します。

1. 一太郎 2006 における主なルビ振りの機能の例

※詳しくは、一太郎の製品付属のマニュアル等をご覧ください。

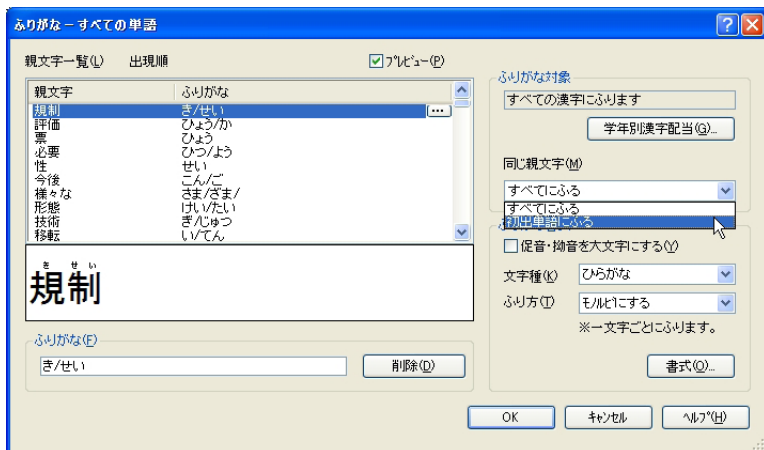
- ・全ての単語に自動でルビを振る（総ルビ）
- ・選択した単語（一単語）に自動でルビを振る（パラルビ）
- ・モノルビ、グループルビ
注）モノルビは ATOK 使用時のみ可能
- ・ひらがな、カタカナルビ
- ・ルビ拗促音を大文字にする
- ・学年別漢字配当表に基づいてルビを振る（図 1）
- ・初出漢字にルビを振る（図 2）
- ・同じ親文字を検索してルビを振る（図 3）

○図 1 学年別漢字配当表に基づいてルビを振る



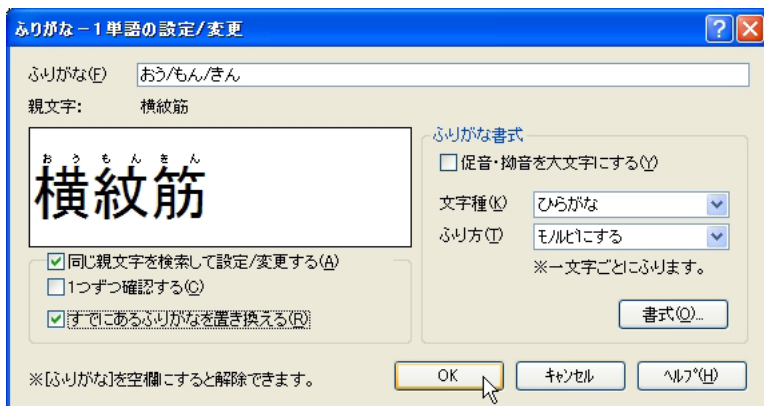
- ・例えば小学校の学年に応じて、ルビを振ることができます。学習参考書やドリルなどに大変便利です。

○図2 初出漢字にルビを振る



- ・初めて出現する漢字にのみ、ルビを振ることができます。

○図3 同じ親文字を検索してルビを振る



- ・特定の語句を検索し、指定した読みで強制的にルビを振ることができます。自動でルビを振る前に、特定の語句の読み（ルビ）を付けておきたい場合など、一括で振れるため便利です。（振った後から一括で訂正することも可能です）

2. ルビ振りを行う対象文書のページ数について

- 一太郎 A4 サイズの一文書あたり、数ページから 20 ページ程度です。それ以上の場合は、ルビ変換にかなりの時間を要しますので、対象文書を分割して保存することをおすすめします。
(一太郎でのルビ振りは分割前に一度に行ってかまいません)
- 一太郎上で 10 ページ程度でも、例えば A5 版で文字サイズが大きめの InDesign 文書上では、20 ～ 30 ページに相当します。
- 一太郎上で文書にルビを振り、doc 形式で保存する場合、あまりページ数が多いと、「ファイルに書き込めませんでした」というメッセージが出て保存ができないことがあります。
(一太郎上で 50 ページ以上の場合、その可能性が高くなります)
- お客様の PC 環境が非常に高速な場合や、時間のかかる処理に PC を連続して使える場合は、保存や実行が可能であれば、対象文書のページ数に上限はありません。

3. モノルビ、グループルビの精度について

- 特に一太郎 2006 以降現在の一太郎 2017 に至るまで、それ以前に比べモノルビの精度が大きく向上しています。通常はモノルビを振ることが多いと思われませんが、自動で精度の高いモノルビが振れますので、総ルビなどルビの個所が多い仕事に効果を発揮します。
- 1 語句（漢字の文字列）を選択してグループルビを振るときには特に問題ありませんが、全ての語句に自動でグループルビを振るときに、一部ひらがなにも振られてしまう場合があります。
(一太郎のバージョンにより差異が見られます)

4. ルビの校正について

- ・正しく（原稿どおりに）振られているか一太郎上で校正し、違っている個所は修正します。
- ・特に自動で振られたグループルビに対しては、仮名にルビが振られていないかを校正します。（仮名にルビが振られたまま変換した場合、親文字とルビの区別ができず正しい結果になりません） →【補足および注意事項】参照
- ・校正は、ファイルの拡張子が「jtd」の文書（通常の一太郎文書形式）で行って下さい。doc 形式のファイルでルビを追加・修正すると、保存できない場合があります。

5. ワークフローの参考

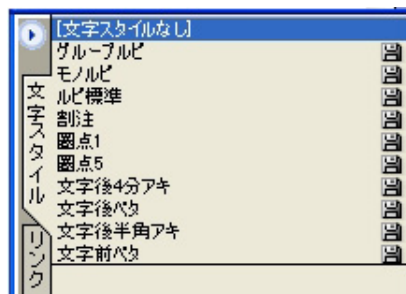
- ・大量に自動でルビを振る場合は、モノルビとして振ることをおすすめします。
- ・一太郎でモノルビとして振っておき、変換時の設定で「グループルビ」とすれば、InDesign のグループルビに変換できます。
- ・一太郎で「書式」－「ふりがな」－「すべての単語」または「一単語の設定」のメニュー（コマンド）に対して、ショートカットキー（例えば Alt + C など）を割り当てておけば、総ルビやパラルビの指定が素早く行えます。
- ・「すべての単語」は、既に振られた個所以外にルビが振られます。
- ・ルビ振りの PC と変換用 PC が別に確保できる場合は、対象文書を小分けにし、本ソフトでルビ変換中に一太郎で次の文書を校正すれば、同時並行的に作業できます。
- ・一太郎上で、校正を考慮した見やすい体裁（行間を広めに、ルビのサイズを大きめに）にすることにより、ルビの校正をやり易くできます。

【補足および注意事項】

(1) 文字スタイルについて

1. ルビ変換処理時に、文章中のルビや圏点などが含まれる文字列に対して、自動で文字スタイルが付加されます。

- ・ 以下は InDesign 流し込み後の、「文字スタイル」パレットの例です。読み込まれている文字スタイルは、すべてタグ付きテキストのヘッダ（先頭部分）で定義されているスタイルです。



2. ルビや割注、圏点の各種設定に基づいて付加されます。

- ・ 例えばモノルビ・グループルビ、圏点 1（ゴマ）・圏点 5（小さい黒丸）、その他割注や割注前後のアキ設定に対して、それぞれに文字スタイルが付加されます。

(2) タグ付きテキストについて

1. 本ソフトでは、文字コードは Unicode に統一しています。

「header.txt」ファイルの先頭は、<UNICODE-WIN> とし、保存時の文字コードは、必ず Unicode を選択しファイルを保存して下さい。（Unicode 以外では、文字化けなどエラーになります）

2. 「header.txt」は、Win 用のみ作成します。Mac 用は内部的に生成しますので不要です。

3. デフォルトの書体とウェイトは、<cFont: 小塚明朝 Pro><cTypeface:R>です。InDesign のバージョンや PC の環境によりフォントが無い場合は、カスタムのヘッダでフォントを変更するか、配置後に適切なフォントに変更して下さい。ただし、OpenType Pro のルビ字形を使用したい場合には、OpenType Pro のフォントを選択する必要があります。

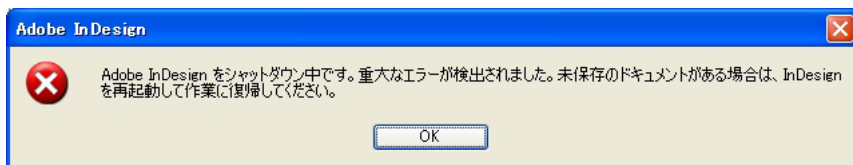
(3) Mac 用タグ付きテキストについて

1. ファイル先頭に BOM (バイトオーダーマーク。2 バイト分で、Mac では 16 進コード FEFF) があると、InDesign 側でタグ付きテキストとして認識されません。よって本ソフトから出力されるファイルは BOM がなく、必ず <UNICODE-MAC> の先頭文字の <(16 進コード 003C)> から始まります。
2. BOM がないと開けない、あるいは Unicode に対応していない Mac 用エディタやワープロでは、ファイルを開けなかったり文字化けしたりすることがありますが、異常ではありません。
3. Mac 用エディタやワープロで、保存時に自動で BOM が付く場合は、InDesign で正常に読み込めません。BOM を付けずに Unicode で保存できる環境にないときは、Mac 上でタグ付きテキストの編集は行わず、流し込み後 InDesign 上で修正するなどして下さい。

(4) タグ付きテキストの InDesign への配置時の注意

1. 文書が開かれていない、空のフレームのみの文書でない、文書がアクティブ化 (画面に表示) されていない、PC に InDesign が入っていない場合は、いずれもエラーになります。
2. テキストの体裁 (スタイルなど) を生かす場合は、フレームグリッドでなく、テキストフレームを使用して下さい。

3. スタイル（文字スタイル・段落スタイル）が InDesign 上で反映されていない場合や、テキスト読み込み中に InDesign が強制終了する場合には、新規文書を作成し新規にテキストフレームを作成してから、自動または手動で流し込んで下さい。
4. タグ付きテキストの構造に問題がない場合でも、流し込み中にエラーが発生する場合があります。



- ・ InDesign を再起動すれば、流し込みできる場合があります。再び同様なエラーが出る場合は、新規文書を用意して流すか、タグ付きテキストをいくつかのファイルに分け（ヘッダ部分はそれぞれに必要です）、手動で流し込んで下さい。

（５）ルビ変換について

1. 本ソフトは、総ルビ・パラルビにかかわらず、一太郎上で自動でふりがな（ルビ）を振った文書に対し、InDesign のルビに変換することを主な目的として開発されています。
2. 本ソフトにおけるルビの認識は、漢字は親文字列、ひらがな・カタカナはルビ文字列、という基本パターンで判断し変換を行っています。
3. したがってルビの文字列は、漢字の読みとしての「ひらがな・カタカナ」のみ想定しています。ルビに漢字・欧文・記号が含まれているとき、ひらがなやカタカナにルビが付いているような例外パターンの場合は、正常に処理できません。ただし、ルビ区切り記号を入力すれば、対応が可能になります。

→（６）ルビ区切りについて 参照

4. 例外パターンでルビ区切り記号を入力しない場合は、親文字列がルビと見なされたり、ルビ文字列が親文字と見なされたりして、正しく変換されません。
5. 例外パターンでルビ区切り記号を入力しない場合は、一太郎上で例外パターンに該当するルビを削除し、ルビ変換後に InDesign 上であらためて入力する必要があります。
6. 「かな種別」は、次のような変換を行います。
 - ・「ひらがな」は、一太郎上のかな種別のまま変換します。（通常はこちらを選択します）
例えばひらがなのルビの文書に、^{デッキ}「甲板」などカタカナのルビが混じっていても、そのままの状態に変換されます。（カタカナのルビは、ひらがなに変換されません）
 - ・「カタカナ」にした場合は、一太郎上のかな種別にかかわらず、ルビ文字列は全てカタカナに変換されます。

（６）ルビ区切りについて

1. 例外パターンでルビと親文字とを区別するためには、一太郎上でルビ文字列の末尾にルビ区切りを入れます。
2. ルビ区切り記号は、△▲▽▼のいずれか一つを設定します。
3. 例えば「^{インド北部}その^部辺り」という組み方をしたい場合は、次のような入力を行います。
 - ・ルビ区切りを▼とすると、一太郎上で親文字「その辺り」に対し、グループルビの読みに「インド北部▼」と入力します。
4. ルビの入っていない親文字（通常の文章）中のルビ区切り記号（△▲▽▼）は、単なる記号として扱われます。

(7) モノルビとグループルビについて

1. 一太郎上のグループルビは、変換時の設定が「モノルビ」でも、InDesign 上でグループルビになります。(一太郎のグループルビを、InDesign のモノルビに変換することはできません)
例えば一太郎上で、必要な個所だけはグループルビを振り、その後自動で全体的にモノルビを振れば、その混在した振り方は InDesign 上でも再現されます。

しよくにんかたぎ
例 職人^{しよくにんかたぎ}氣質^{きしつ}の (職人はモノルビ、氣質はグループルビ)

2. グループルビは、InDesign 上で分割禁止 (行にまたがらず、例えばグループルビごと次行に追い出される) になります。
3. グループルビの対象の違い

- ・一太郎のグループルビは、変換後も対象 (語句の単位) がそのまま再現されます。

こうちょうせんせい
例 ～が、校長先生^{こうちょうせんせい}に (校長と先生が別の語句の例)

- ・一太郎のモノルビは、変換時の設定を「グループルビ」にすれば、グループルビに変換できますが、連続した漢字 (親文字) 全体が、グループルビになります。

こうちょうせんせい
例 ～が、校長先生^{こうちょうせんせい}に (校長先生で一語句)

(8) 割注について

1. 割注はルビ区切りと同様に、一太郎上でグループルビの読みの末尾に、割注区切り記号 (☆★◇◆) のいずれかを入力します。
2. ルビ変換の設定が「カタカナ」でも、割注内の仮名には適用されません。

3. 割注前後のアキ（4 分アキ・半角アキ）について

- ・ 前のアキは、直前の文字に「文字後のアキ量」が設定されます。
 - ・ 後のアキは、直後にスペース（8 分×2 や半角）が入ります。
- ジャスティフィケーションの関係で、アキ量が調整される場合がありますので、必ずしも固定幅のアキになるとは限りません。

1281年の元の襲来★

- ### 4. 弘安の役（変換前） 弘安の役^[1281年の元の襲来]（変換後）
- のように割注文をルビとして入力する場合は、割注内の文章（文字数）が多すぎると、一太郎または Word でエラーになります。環境によりますが、50 ～ 60 字以内が処理可能な目安になります。

（9）Word のルビについて

1. 本ソフトは、Word 上で入力されたルビには対応していません。
2. Word2002 以上のルビと、本ソフトが対象とする一太郎の doc 形式保存のルビは、形式（フォーマット）が異なります。
3. ルビなどの校正・修正は、一太郎上で行って下さい。doc 形式で保存後、Word で開き修正した場合、正常に処理されません。
4. Word 文書上でルビを入力（追加・修正）した場合、ルビの形式が混在します。変換時にルビが見つからない、あるいは Word のルビが、学校（がっこう）のようにカッコで表現される、タグ付きテキスト読み込み時にエラーになるなど不具合が生じます。

（10）アプリケーションのバージョンについて

○ InDesign

- ・ 直前に起動したバージョンの InDesign を、本ソフト実行時の対象となる InDesign として認識します。
- ・ 混在環境（例えば InDesign の CC2017 と CS6 がインストール

されている)でも本ソフトは実行できますが、できるだけ単一バージョンの InDesign で運用することを推奨します。例えば CC2017 で CS6 の文書(空のフレーム)を開き、本ソフトを実行するとエラーになります。

注) InDesign CC に限り PC 環境が 64bitOS の場合、64bit 版と 32bit 版が両方インストールされますが(2017.5 月現在)、32bit 版をアンインストールしないと本ソフトは実行できません。(CC2014 以降ではこの問題は生じません)

○ Word (Microsoft Office)

- ・ Word は混在環境でなく、できるだけ単一のバージョンを PC にインストールしてご使用下さい。混在環境で一方のバージョンを削除すると本ソフトが動作しなくなる場合があります。その場合は再インストールが必要になります。

注 1) Office2016 は仕様により、同じ Excel や Word のバージョン混在はできません。(2017.5 月現在)

注 2) Microsoft Office は PC 環境が 64bitOS の場合でも、デフォルトでは 32bit 版がインストールされます。本ソフトは 32bit 版 Office が必須となり、64bit 版では動作しません。

○一太郎

- ・ doc ファイルの保存形式に変更がない限り、一太郎のいずれのバージョンも使用可能です。

《参考》本ソフトの Windows8 対応版において、InDesign の 64bit 版は動作不可でしたが、Windows10 対応版では動作可能となっています。

各アプリへの個々の対応については、SND Software の製品ホームページに記載された動作確認リストを参照下さい。

(11) 本ソフトの運用および処理時間について

1. 実行時間は、対象文書のルビの数および文章量が多いほど長くなります。
2. 本ソフトは、数ページから数十ページの、比較的分量の少ない文章のルビ振り（変換）に適しています。
3. 約 12000 個所（モノルビ）のルビ変換の処理時間例
 - ・ 25 分程度（Intel Core 3.2GHz 相当 A5 版 40 ページ分）注）処理時間は目安であり、同等のクロック数でも PC の総合的な性能により、数倍時間を要する場合があります。また、上は A5 版本文 16Q の例ですが、版型や文字サイズにより同じ 40 ページでも、所要時間は大きく異なります。
4. 一太郎での自動ルビ振り（総ルビ）時間は、A4 で 20 ページの文書の場合、30 秒～ 1 分程度です。また、doc 形式での保存にかかる時間は、30 秒程度です。
5. 流し込み対象となる InDesign 文書が縦組の場合は、一太郎での文書スタイル（書式）も縦組にする必要があります。
一太郎の横組の文書を変換し、縦組の InDesign 文書に流すことは可能ですが、縦組専用字形に差し替わらない場合があります。
6. 本ソフトは、InDesign が入っていない PC でも実行できます。
変換した結果のタグ付きテキストファイルを、ネットワークや記憶媒体を利用して InDesign の入っている PC に渡せば OK です。
（本ソフト実行時に必要なのは、Word だけです。一太郎でのルビ振りと保存は、他の PC で行っても問題ありません）
7. レジストリを改変したり、本ソフトがインストールされたフォルダの配置や構成を、変えないで下さい。本ソフトが実行できなくなる原因になります。

(12) ルビ数のステータス表示について

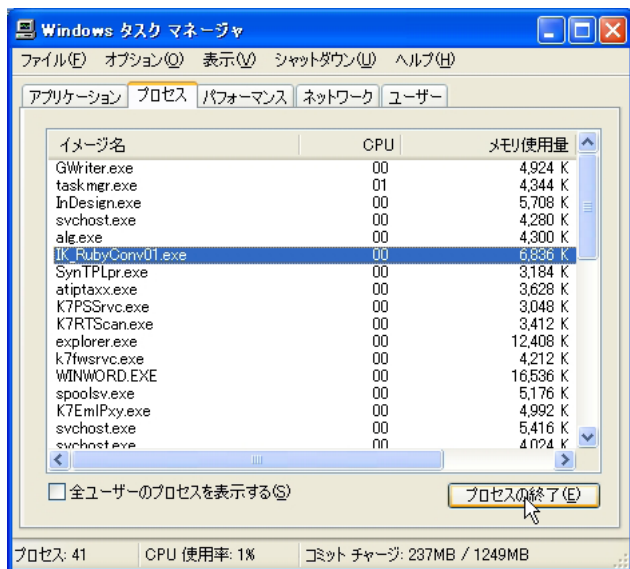
下記の項目については、「変換されたルビ数」としてカウント（1個所と数える）し、結果をリアルタイムで表示します。

- ・モノルビは、親文字（漢字）1文字ごと
- ・グループルビは、グループルビの文字列ごと
- ・割注は、割注文ごと
- ・圈点は、圈点入り文字列ごと

(13) 実行中に反応しなくなった場合の復帰方法

1. タスクマネージャーでプロセスを強制終了します。

- ・IK_RubyConv03.exe, WINWORD.EXE, InDesign.exe の中で、反応のないものを選択して「プロセスの終了」を押します。
(タスクマネージャーは、Ctrl + Alt + Delete キーで起動します)



2. 各ソフトで、「保存しないで終了」を選択します。

- ・各ソフトの強制終了中または再起動後に、ファイル保存につい

てダイアログが表示されることがあります。

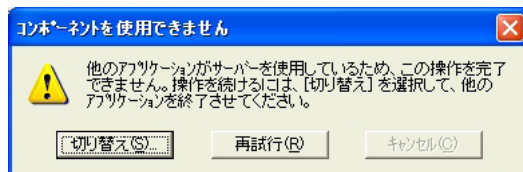
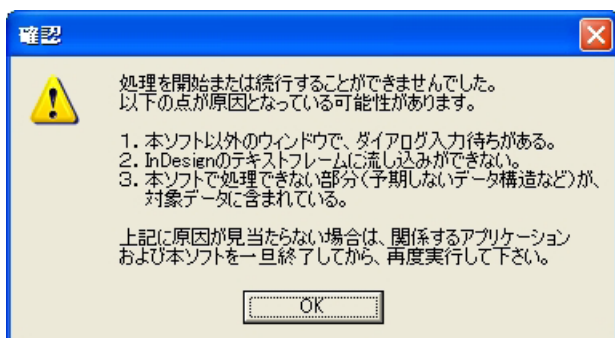
これらは処理中のファイルであり、中途の状態になっていますので、必ず破棄終了して下さい。

- ・破棄終了せずに中途のファイルを保存した場合は、再度実行したときの結果が正しくなりません。

3. 各ソフトを再起動し、あらためて実行します。

(14) 状況により発生するエラーについて

処理が中断したり、本ソフトが反応しなくなったりして、次のようなエラーが表示されることがあります。



このようなエラーは、以下の①～⑤が主な原因です。

①本ソフト以外（InDesign または Word）で、ダイアログ入力待ちの状態になっている。

→ダイアログに対し、OK ボタンを押すなど入力を行えば、本ソフトの処理が継続される場合があります。

②対象となる InDesign 文書が見つからないか、フレーム内に文章が存在するなどの原因で、流し込みができない。

→ InDesign に流し込む設定の場合は、実行前に InDesign 文書（空のフレームのみ）を開いておきます。

③本ソフトで処理できない（予期していない）データが含まれている。

本ソフトは、一太郎上で漢字に仮名のルビを付けた文書を、対象として変換します。（一太郎や Word で変換に必要な特別な文字飾りやコマンドが使われていないことを想定していますが、ボールドやイタリック、アンダーラインなどは問題なく変換できます）

→エラーの可能性のある部分をプレーンなテキストに差し替えるか、複数文書に分割して再度実行して下さい。

→仮名に仮名のルビが付いていて、ルビ区切りが適切に入っていない場合にも予期せぬエラーになることがあります。

文書中にそのようなルビ入り文字列が見つかった場合には、一太郎に戻りルビを削除するなどして再度実行して下さい。

④本ソフトの実行環境（本説明書の P4）を満たしていない。

→ユーザーアカウント制御や「管理者として実行」などの実行環境を再確認して下さい。

⑤アドビ社のフォント関連サービスである「Typekit」を利用している場合、お使いの PC 環境に無いフォントを同期しようとしてダイアログが表示されている。

本ソフトでの変換終了後、InDesign の空のフレームに流し込む最終段階で Typekit のダイアログが表示され、流し込みができず変換結果が得られないエラーとなります。

→本ソフトのデフォルト（自動で生成されるタグ付きテキストの初期値）の書体とウェイトは、小塚明朝 Pro の R（レギュラー）です。フォント環境を再確認の上、必要な場合はフォントをインストールして下さい。

フォント（小塚明朝 Pro の R）が正しくインストールされていない時は、コントロールパネルのフォントを開いても表示されません。正しくインストールするためには、フォント（インストールを繰り返した場合は、フォントの複製を含めて）を削除し、InDesign とともに再インストールして下さい。

その他①～⑤以外の何らかの原因で、アプリケーション間通信（本ソフトから Word や InDesign を制御すること）が中断した場合も、エラーが発生します。

注 1）変換処理中はマウス・キー操作をしないで下さい。通信が中断したり、エラーが発生する原因になります。

注 2）どうしても反応しないとき、ルビ変換中にやむを得ず処理を中止したいときは、タスクマネージャで対象のソフトを強制的に終了して下さい。

注 3）エラーの原因が不明の場合は、Office を単独で再インストールして最新のアップデートを適用するか、他の PC に本ソフトを移行して動作を確認して下さい。

注 4）ごくまれに、「一部の語句について変換できないデータがありました」というエラー文が表示されることがあります。OS やアプリケーションが不安定になっていることが原因で、ほとんどの場合再起動すれば正常に変換できます。

【インストールについて】

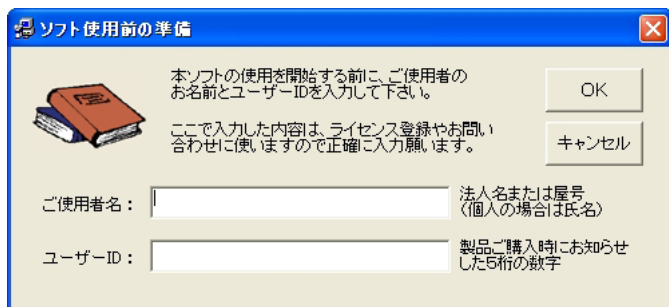
(1) インストールについて

1. 本ソフトをお客様の PC にインストールします。

- ・インストール用ファイルの中の setup.exe をダブルクリックし、画面に従って本ソフトをインストールします。
- ・動作環境など、本ソフトの運用に適した PC を選択して、インストールを行って下さい。

2. 本ソフトのプログラム本体（IK_RubyConv03.exe）を起動すると、プログラム使用許諾契約書および初期設定の画面が表示されます。

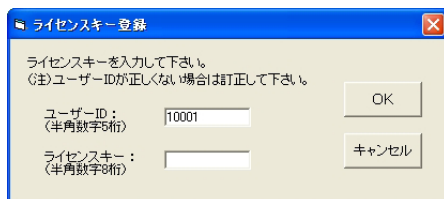
- ・プログラム使用許諾契約書の確認後、初期設定の画面で、お名前とユーザー ID（5 桁）を入力します。



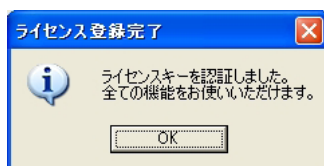
- ・OKを押すと、本ソフトのメイン画面が表示されます。
この時点ではルビ変換処理の実行はできません。実行するには、使用開始の手続き（ライセンス手続き）が必要です。
- ・毎回起動時の実行環境チェックで異常があった場合は、プログラム使用許諾契約書または初期設定の画面が表示され、インストール直後の状態に戻ります。

(2) ライセンス手続きについて

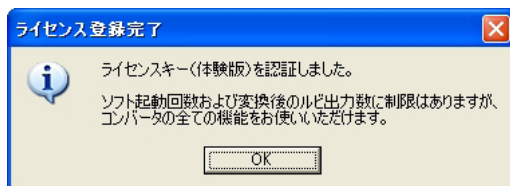
- ・「ユーティリティ」－「管理」－「使用開始の手続き」のボタンを押してライセンスキーを入力して下さい。



- ・認証されると手続きが完了し、本ソフトが実行できます。



注) 体験版ライセンスキーを入力すると、本製品を体験版として制限付きで動作させることが可能です。その場合は次のような画面が表示されます。



(3) アンインストールについて

- ・アンインストールは、「コントロールパネル」－「プログラムの追加と削除」で本ソフトを削除して下さい。
バージョン up など再度インストールする場合も、一度アンインストールしてから、あらためて本ソフトをインストールして下さい。

【製品サポートについて】

お客様に対する無償のサポートとして、以下の対応をさせていただきます。

①バージョン UP（アップデート版含む）のご案内

②製品の動作や事例などのお知らせ

③新製品のご案内

（①～③は、製品ホームページへの掲載、またはお客様へのメールにて行います。回数・時期などは、実施の有無も含めて SND Software にて定めさせていただきます）

④操作方法のご質問に対する回答

本製品の使用に関する個々のご質問は、ご購入後3ヶ月間メールにて承ります。

《重要》 Windows10 対応版リリースに伴い、製品ホームページにサポートポリシーを記載しています。ご一読いただけますようお願い申し上げます。

イッキにルビ振り ルビコンバータ
for 一太郎 to InDesign Windows10 対応版

Copyright 2017 SND Software All rights reserved

本使用説明書の無断転載は固くお断りします。

開発元： SND Software 2017 年 5 月発行